

〔 横浜市民ギャラリー 〕
令和4年度業務報告及び収支決算
〔公益財団法人横浜市芸術文化振興財団／西田装美株式会社共同事業体〕

- ※ 文中の事業欄において、
 ●：主催事業 ○：共催事業 を示します。
 ※ 文中の達成指標欄において、
 □：定量的指標 ■：定性的指標 を示します。

1 施設の概要

施設名	横浜市民ギャラリー
所在地	横浜市西区宮崎町 26-1
構造・規模	鉄筋コンクリート 4階建（地下1階～地上4階）
敷地・延床面積	敷地面積 2,301.11 m ² 、延床面積 3,428.44 m ²
開館日	平成 26 年 10 月 10 日

2 指定管理者

団体名	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団／西田装美株式会社共同事業体
代表団体所在地	横浜市中区山下町 2 番地
代表団体代表者	理事長 近藤 誠一
代表団体設立年月日	平成 3 年 7 月 10 日
指定期間	令和 4 年 4 月 1 日から令和 9 年 3 月 31 日まで
現指定管理者（代表団体）の 管理運営開始日	平成 8 年 4 月 1 日から

3 指定管理に係る業務方針 指定管理業務実施にあたっての方針

(1) 基本的な方針

1964年に日本で最初に「市民ギャラリー」を冠した施設として開館以来、横浜の芸術文化の発展の一端を担ってきた「横浜市民ギャラリー」の市民から親しまれてきた歴史の更なる継続と、横浜市の文化芸術政策等への貢献を念頭に、特に、市民の文化活動の支援、次世代育成を重視し、次の3つの方針をもって、横浜市民ギャラリーの運営に取り組みました。

方針1 市民の文化活動を支え、地域と連携しながら、誰もが芸術文化に触れることができる機会を提供し、「市民のための」ギャラリーであるからこそその運営を行います。

- ① 「市民の文化芸術活動を支え、交流を生み、情報発信のターミナルになるギャラリー」としての運営を行います。（使命1）
- ② 「同時代の表現や、個人の創作活動を通して、人との出会いと多様な価値観に触れる機会を提供するギャラリー」としての運営を行います。（使命2）

方針2 市民の貴重な財産である収蔵作品を次世代へ継承するため、保管環境の改善と修復等について横浜市と緊密に情報共有を行い共に取り組むとともに、事業を通じて、その魅力を伝えていきます。また、子どもたちをはじめとして文化に関わる次世代を育成します。

- ① 「市民の貴重な財産である収蔵作品を次世代に継承すべく力を注ぎ、その魅力を伝え、美術への関心を喚起するギャラリー」としての運営を行います。（使命3）
- ② 「次世代の感性を育て、誰もが生涯にわたって芸術文化に触れる喜びを持つことができるギャラリー」としての運営を行います。（使命4）

方針3 持続可能な施設運営を目指し、変わらない安心と変わる勇気をもって、安心、安全で快適な環境づくりに努めます。

- ① 「安心・安全で持続可能な施設であるために、変わらない安心と変わる勇気を持ったギャラリー」としての運営を行います。（使命5）
- ② 「徹底した感染防止対策の下で、細心の注意と情報共有に努め、迅速に対応するギャラリー」としての運営を行います。（使命6）

（2）令和4年度の業務の方針

ア 全体について

第4期の初年度となる令和4年度も、これまでの経験やノウハウを活かしながら、「新・今日の作家展」、「横浜市こどもの美術展」、「コレクション展」を中心とした展覧会及び幅広い市民を対象とした講座等の自主事業について、着実な運営を行いました。第3期から開始した地域に根差した他施設との連携事業や若手作家支援事業については、それぞれに目標に即した企画を実現しました。

また初挑戦した「クラウドファンディングによる横浜市民ギャラリー収蔵作品修復プロジェクト」では、目標を大きく上回る寄附を頂戴することができ、修復した作品2点をコレクション展で市民の皆さまにお披露目することができました。

貸館事業や施設管理についても適切な感染症対策を講じ、コロナ禍だからこそ望まれている利用者の文化活動の実現をサポートする運営を行いました。

イ 使命1 文化芸術活動を促進するため、活動の場を提供する

市民の皆さんに美術を中心とした文化芸術活動を創作、体験、発表する場を提供することで、市民の文化芸術活動を支援し、文化活動人口（文化活動の支援者を含む）の増加に寄与する。

＜市民の文化芸術活動を支え、交流を生み、情報発信のターミナルになるギャラリー＞

細やかで丁寧な貸出業務を通じて市民の皆さんの文化活動を支えることができました。展覧会を開催する人、鑑賞する人、作品を創る人、体験する人、すべての人にとって身近でありながら、晴れの場であり、人と人が交流する喜びを生む空間であるよう運営を行いました。また、市内の多くの美術施設の活動を発信することでその活動を支援し、文化活動に携わる人の増加に寄与しました。

ウ 使命2 文化・芸術の鑑賞の機会を提供する

美術を中心とした、芸術文化に触れる機会を提供することで、新たな気付きや発見を促し、多

様な価値観を受け入れる文化の醸成に貢献する。

＜同時代の表現や、個人の創作活動を通して、人との出会いと多様な価値観に触れる機会を提供するギャラリー＞

同時代に活動する作家の作品に触れ楽しむ、心豊かな時間を提供するとともに、横浜の美術史を継承した文化醸成の一翼を担い、その歴史を未来へ繋ぐことができましたと考えます。

開催される多彩な展覧会に気軽に訪れることができる場として、地域に根差して活動を展開する団体（町内会、公共施設、画廊、創造界隈拠点、神社仏閣、保育園等）と分野を超えて繋がり、人との出会いと多様な価値観に触れる機会を提供できました。

エ 使命3 収蔵作品の活用を通じて、文化芸術活動への興味を引き出す契機となる

収蔵作品の調査研究に取り組むとともに、計画的かつ適切な管理・保存等を行うことにより、収蔵作品を次世代へ継承する。また、収蔵作品の活用を積極的に行い、美術に対する関心を喚起する機会を創出する。

＜市民の貴重な財産である収蔵作品を次世代に継承すべく力を注ぎ、その魅力を伝え、美術への関心を喚起するギャラリー＞

当館の収蔵作品は、同時代および地域の美術史をあらわすものであり、市民の貴重な財産です。作品が制作された当時の時代性が反映された表現は過去を知る手がかりとなり、現代においても新たな視点をもたらします。

この収蔵作品を積極的に活用し、「コレクション展」を核に、各種事業を通じ広く発信し、美術への関心を喚起する機会を創出することができました。

また、収蔵作品を次世代へ継承するため、収蔵作品の状況及び修復の必要性や、収蔵庫の状況改善などについて、所管局である文化観光局と緊密に情報共有を行い、協働して取り組みました。

オ 使命4 文化活動を切り口として、次世代育成を中心にあらゆる人を受け入れる

次世代育成を中心に、美術を中心とした文化に触れる機会を提供し、豊かな感性を育む。

＜次世代の感性を育て、誰もが生涯にわたって芸術文化に触れる喜びを持つことができるギャラリー＞

家庭、学校以外の「第3の場所」で体験する文化活動を通じて、子どもたちの自由な発想と豊かな表現を育み、その健やかな成長を応援し、子どもたちが生涯にわたって芸術文化に親しむきっかけを提供しました。

また、学生インターンやボランティアを受け入れ、アートにかかわる就業を目指す若い人たちに機会を提供するとともに、特別支援学校生への職業体験の場の提供等を通じ、障がいのある子どもたちにもアプローチしました。

カ 使命5 持続可能性を高める施設運営を行う

法令等に則った施設の保守・点検や日常的な予防的修繕などの維持管理を行い、安全で快適な施設を維持する。また、効率的な経費の執行や収入増の取組等により、安定的な施設運営を行う。また、文化施設としての専門性を発揮し、市民の皆さんに親しまれる施設となる。

＜安心・安全で持続可能な施設であるために、変わらない安心と変わる勇気を持ったギャラリー＞

当館施設は、築 35 年（昭和 62 年・1987 年竣工）を超えた建物を改修して利用しています。そのため、特に施設の長寿命化を図るための予防的修繕及び収蔵庫の環境改善が重要です。建物管理を専門とし文化施設の施設運営に豊富な経験とノウハウを持つ共同事業体として、専門的な知見から常に状況を把握して予防的修繕や維持管理を行うとともに、長期的な持続可能性を高めるための修繕や計画については横浜市に情報提供を行いながら、協働して取り組みました。

快適な施設環境の提供とお客さまの安全を第一とした運営により、市民の活動を支えるとともに多くの皆さんに安心してご利用いただける施設としての持続可能性を高めることに努めました。

キ 使命 6 新型コロナウイルス感染症の影響を想定し、施設運営を継続する

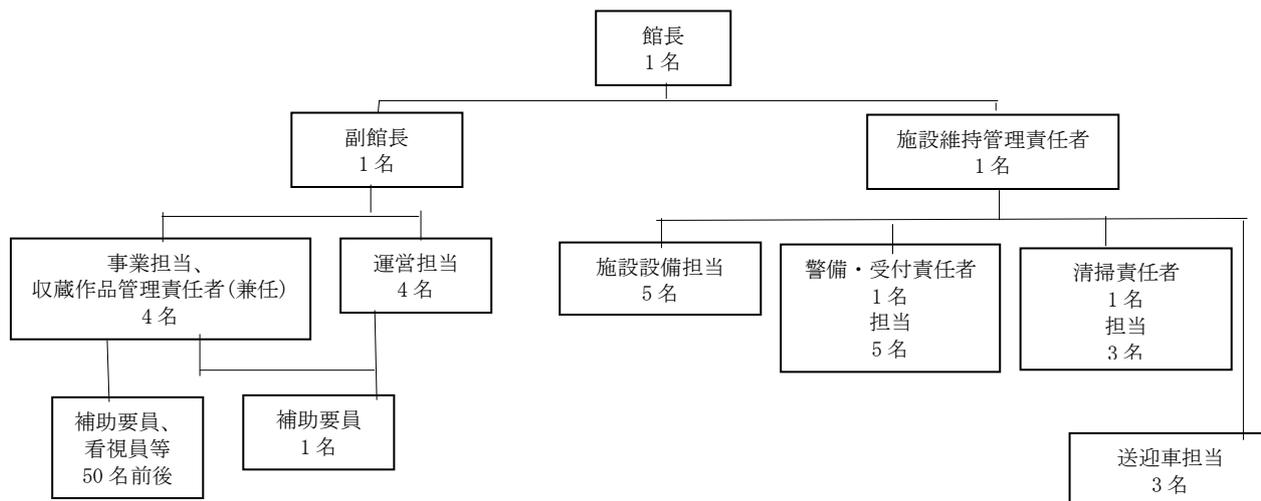
新型コロナウイルス感染症の影響が長期化した場合には、徹底した感染防止対策の下で、安全に自主事業及び貸館業務を実施し、市民の文化活動の基盤として施設運営を継続する。

＜徹底した感染防止対策の下で、細心の注意と情報共有に努め、迅速に対応するギャラリー＞

横浜市と綿密な情報共有と連携をとり、横浜市及び美術業界や業種別のガイドラインを踏まえ、衛生管理や対策を徹底し、情報共有に努め、迅速に対応することで、市民の皆さんの文化芸術活動の基盤としての役割を果たしました。

- 1 自主事業企画時および開催時の対策の徹底
 - 2 スタッフによる衛生管理の徹底
 - 3 施設をご利用のお客さまへの衛生管理徹底のお願い
 - 4 収支バランスを注視した、事業内容や運営等の柔軟な見直し
 - 5 ご利用のお客さまや来場されるお客さま、作家・講師等との関係性の維持
- 以上について、滞りなく実施しました。

4 運営組織の構造、人員配置



統括責任者である館長の下に、事業、運営系に横浜市芸術文化振興財団の職員（一部業務委託を含みます）が、施設維持管理系に西田装美株式会社の社員（送迎車は平和交通株式会社に委託）を配置しました。共同事業体としての専門性、強みを活かせる運営組織となっています。

5 令和4年度の業務の取組

(1) 文化事業

自主事業の「新・今日の作家展」、「横浜市こどもの美術展」、「コレクション展」といった長年行ってきた歴史ある展覧会と、「大人のためのアトリエ講座」、「ハマキッズ・アートクラブ」などアトリエを利用した講座について、幅広い世代の鑑賞者や参加者が関心を抱き、かつ安心して横浜市民ギャラリーに来館していただけるよう、十分な調査のもと可能な範囲でコロナ対応の動向等の諸事情に配慮した形で開催しました。また第3期からスタートした地域に根差した活動である5館連携事業「横浜・紅葉ヶ丘まいらん」や、「U35 若手芸術家支援事業」といった新たな事業についても充実させることができました。

(2) 施設の提供

展示室・アトリエの利用者の方々に対して、細やかなコミュニケーションをとりました。令和4年度は、その基盤となる「お客さま台帳」作成に段階的に取り組みました。新規のお客様・団体は26名（団体）でした。

コロナ禍も3年目となり、感染拡大の波が幾度も押し寄せてくる世の中ではありましたが、コロナ禍始まったばかりの頃とは異なり、横浜市民ギャラリーにおいて展覧会を催す利用団体・利用者がコロナ禍前に近いところまで戻ってくださり、令和4年度の展覧会場の利用率は89%（コロナ禍前以降の推移：平成30年度95%、令和1年度91%、令和2年度40%、令和3年度79%）となりました。

(3) 施設運営

令和4年度は、第4期提案書にある新規事業（「いりぐちギャラリー」）の検討を行い、令和6年度の横浜市民ギャラリー開館60周年にお披露目できるように準備を進めました。

(4) 施設管理

当館施設は、築35年（昭和62年・1987年竣工）を超えた建物のため、修繕が必要となる箇所も多く、予防的修繕や維持管理をこまやかに実施しました。長期的な持続可能性を高めるための修繕や計画については横浜市に情報提供を行いました。令和4年度より、環境管理会議を定期的で開催することで、設備管理をスムーズに行うことができました。また、IPM（総合的有害生物管理）の手法を取り入れた環境管理を継続し、その一環として年末にB1Fバックヤードの大規模清掃を行い、環境の把握と向上につとめました。

(5) 収支

光熱費の高騰による支出の増加がありましたが、利用料収入以外での収入の獲得と、経費削減とで、適切な収支バランスの確保に努め、年度収支差額は2,262,781円となりました。

(6) 各種計画書・報告書の作成及び業務評価

各種計画書・報告書につきましては、横浜市と協議しつつ適切に提出しました。

(7) その他

指定管理第4期では、収支計算書科目として「収蔵作品点検・修復費」が新たに追加されていますが、当初予算額に加えて新たにクラウドファンディングによる収蔵品修復資金の獲得に努めました。本クラウドファンディング分と当初予算分の合算では作品修復費用は約240万円となりました。本クラウドファンディングでは目標以上の寄付を頂くことができ対象2作品について十分な作品修復を実施することができました。

6 使命の指標の達成状況と重点的取組事項

(1) 使命1 文化芸術活動を促進するため、活動の場を提供する

ア 定量指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通番	項目		R4 実績	R5 達成 指標	R5 実績	R6 実績	R7 実績	R8 達成 指標	R8 実績
1	施設利用率(展示室及びアトリエ)	展示室	89%	95%以上	—	—	—	95%以上	—
		アトリエ	63%	44%	—	—	—	45%	—
2	総来場者数		16.6万人	25万人以上	—	—	—	25万人以上	—
3★	新規利用登録団体数(展示室、アトリエ共通)		28件	20件以上/年	—	—	—	20件以上/年	—

イ 定性指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	達成指標と各年度の実績	
1	利用者、来館者の状況についての現状把握	R4実績	お客様台帳の整備を進めました。
		R5達成指標	「お客さま台帳」の作成やアンケート調査を行い、ニーズを把握
		R5実績	—
		R6実績	—
		R7実績	—
		R8達成指標	把握したニーズが運営に反映されている
		R8実績	—

ウ 使命1を達成するために重点的に取り組む事項

横浜市民ギャラリーにとっては、展覧会や各種講座への来場者様も、またこれらを主催されるご利用者様も、どちらも大切なお客様です。使命1はその運営の根幹となるため、全てにおしなべて重点的に取り組むべき事柄です。そのうえで、令和4年度は、令和2年度から試行的に取り組んできたU35若手芸術家支援事業を継続(1件実施)すると共に、新たに「お客さま台帳」の作成に取り組みました。

(2) 使命2 文化・芸術の鑑賞の機会を提供する

ア 定量指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	R 4 実績	R 5 達成 指標	R 5 実績	R 6 実績	R 7 実績	R 8 達成 指標	R 8 実績
1	自主事業への参加人数	4,960 人	4,000 人以上	—	—	—	4,000 人以上	—
2	来場者(参加者)の満足度(アンケート調査)	4.7	満足度 調査平 均4.0 以上	—	—	—	満足度 調査平 均4.0 以上	—
3 ★	5館連携事業「横浜・紅葉ヶ丘まいらん」、アートなお散歩支援事業、地域連携事業などで新たに連携する団体	3団体	3団体	—	—	—	5団体	—

イ 定性指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	達成指標と各年度の実績	
1	参加者の声(インタビュー調査)	R 4 実績	インタビュー手法等について検討
		R 5 達成指標	インタビュー調査実施、ニーズ・課題を把握
		R 5 実績	—
		R 6 実績	—
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	参加者の声を運営に反映
		R 8 実績	—

ウ 使命2を達成するために重点的に取り組む事項

「世界をとりとめる」と題した新・今日の作家展では、同シリーズの長い歴史において初めてとなる詩人に出品いただいたほか、イベントで制作した作品を追加展示するなど展覧会のコンセプトに沿った充実した内容となり、来場者の共感を呼びました。展示風景や対談イベントの書き起こし、担当者テキストを掲載した記録集は2023年2月にWeb公開しました。さらにアーティスト・インタビューやアーカイブの充実を図り、より多くの人の展覧会への関心を促すとともに作家の活動を広く発信しました。

「大人のためのアトリエ講座」では、新たな取り組みとしてコレクション活用講座を企画。作品の保存と修復をテーマに、当年度に行った「クラウドファンディングによる収蔵作品修復プロジェクト」の取組みについても、参加者に広く知って頂く機会を設けることができました。また、横浜市民ギャラリーがこれまでに築いてきた地域との関わりを軸に、近隣施設に出向いた出張ワークショップやレクチャーを行うことで住民の皆様に親しみを持っていただき、当館の存在価値を伝えることができました。若葉町・黄金町エリアの文化施設と定期的に情報交換会を行い、同エリアで活動するアーティストを講師に迎えた講座を実施し、新たなクリエイティビティを創出し人的交流を促しました。

(3) 使命3 収蔵作品の活用を通じて、文化芸術活動への興味を引き出す契機となる

ア 定量指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	R4 実績	R5 達成 指標	R5 実績	R6 実績	R7 実績	R8 達成 指標	R8 実績
1	コレクション展への来館者数	4,842 人	4,000 人以上	—	—	—	4,000 人以上	—
2	来場者(参加者)の満足度(アンケート調査)	4.5	満足度 調査平 均4.5 以上	—	—	—	満足度 調査平 均4.5 以上	—
3 ★	本施設ホームページ収蔵作品 紹介「今月の1点」への来訪 者数	1,689 件	3,000 件	—	—	—	3,800 件	—

イ 定性指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

	項目	達成指標と各年度の実績	
		R4 実績	実施
1	収蔵作品 の状況把 握	R5 達成指標	作品の点検、確認を行い各種データに反映
		R5 実績	—
		R6 実績	—
		R7 実績	—
		R8 達成指標	横浜市と以降5年の作品修復計画を協議
		R8 実績	—
		R4 実績	—

ウ 使命3を達成するために重点的に取り組む事項

「横浜市民ギャラリーコレクション展2023 描きたい風景」では、横浜の風景を中心に、年代を問わず親しみやすいテーマ設定で53点の作品を紹介し、昨年度を大きく上回る来場がありました。

収蔵作品修復ではクラウドファンディングの手法を初めて取り入れることに挑戦し2件の作品修復を充分におこなうことが出来る成果を上げました。また、当館の収蔵作品が同時代および地域の美術史をあらわす市民の貴重な財産であることを大きくアピールすることができ、これまで横浜市民ギャラリーという存在をご存知でなかった人々にも知っていただける貴重な機会となりました。

大人のためのアトリエ講座では、本プロジェクトに関連して作品の保存修復に関する講座を開催し、幅広い層の関心を集め反響を得ました。また、情報誌やホームページでの作品紹介を行ったほか、エントランスモニター等での作品紹介について今後の取り組みを検討しました。

このほか、業者に委託しての作品修復に加え、専門家のレクチャーを受けた職員による自前クリーニングも行い、作品の保全につとめました。一方で、修復が必要な作品がまだまだたくさんあること、修復を完了した作品について今後も大切に保管していくために横浜市との協議を進めました。

(4) 使命4 文化活動を切り口として、次世代育成を中心にあらゆる人を受け入れる

ア 定量指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	R 4 実績	R 5 達成 指標	R 5 実績	R 6 実績	R 7 実績	R 8 達成 指標	R 8 実績
1	次世代育成を目的とした事業への参加人数	4,138人	15,500人以上	—	—	—	15,500人以上	—
2	来場者(参加者)の満足度(アンケート調査)	満足度平均4.9	満足度平均4.5以上	—	—	—	満足度平均4.5以上	—

※1. 参加人数は、コロナ対応下での実績。

イ 定性指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	達成指標と各年度の実績	
1	参加者の声(インタビュー調査)	R 4 実績	実施
		R 5 達成指標	インタビュー調査実施、ニーズ・課題を把握
		R 5 実績	—
		R 6 実績	—
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	参加者の声を運営に反映
		R 8 実績	—
2 ★	事業に参加した親子、職業体験参加の生徒・保護者(特別支援学校・養護学校)へのアンケート実施	R 4 実績	実施
		R 5 達成指標	結果分析、事業見直し、企画立案
		R 5 実績	
		R 6 実績	
		R 7 実績	
		R 8 達成指標	事業一部リニューアルまたは新規事業開始
		R 8 実績	—

ウ 使命4を達成するために重点的に取り組む事項

「横浜市こどもの美術展」では、子どもと大人が会話しながら一緒に楽しめる「こどものためのコレクション展」を初開催し、子どもたちの視点に沿った内容で好評を得たほか、3年ぶりに開催した自由参加ワークショップでは中学生以上の幅広い世代が運営ボランティアとして活躍しました。

コレクション展の鑑賞サポーター活動では、ボランティアと企画から協働して新規イベント「おしゃべりステーション」を実施し、子どもから大人まで様々な来場者とコレクションを通じて交流する機会となりました。また、年間を通じて大学生・大学院生がインターンとして活動し、アートの現場での実務を体験しながら学ぶ機会を提供しました。

(5) 使命5 持続可能性を高める施設運営を行う

ア 定量指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	R4実績	R5達成指標	R5実績	R6実績	R7実績	R8達成指標	R8実績
1	施設の管理瑕疵に起因する事故件数	0件	0件	—	—	—	0件	—
2	法定点検等の実施率	100%	100%	—	—	—	100%	—
3	修繕予算の執行率	138%	90%	—	—	—	90%	—
4	自主的な収入を得るための取組と目標額	1802万円	1500万円/年	—	—	—	1500万円/年	—
★	IPM (総合的有害生物管理)の手法による環境管理の実施率	100%	100%	—	—	—	100%	—

(注) R4年度修繕予算執行率は、修繕費支出以外の科目で支出した修繕経費を含む数字です。

イ 定性指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	達成指標と各年度の実績	
1	施設の使いやすさや快適さについてのヒアリング	R4実績	実施手法等について検討
		R5達成指標	ヒアリングを行い、必要と判断される案件について対応
		R5実績	—
		R6実績	—
		R7実績	—
		R8達成指標	ヒアリングを行い、必要と判断される案件について対応
		R8実績	—

ウ 使命5を達成するために重点的に取り組む事項

当館施設は、築35年(昭和62年・1987年竣工)を超えた建物のため、修繕が必要となる箇所も多く、予防的修繕や維持管理をこまやかに実施しました。長期的な持続可能性を高めるための修繕や計画については横浜市に情報提供を行いました。

IPM(総合的有害生物管理)では、施設内の情報共有を密にし、所蔵作品を持つ施設として環境維持への意識を高く保つため、令和4年度より新たに共同事業体で環境管理会議を月1回設け、組織として環境改善に取り組む体制を整えました。

令和4年度 「横浜市民ギャラリー」 収支予算書及び報告書

収入の部

(税込、単位：円)

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
指定管理料	147,671,000		147,671,000	147,671,000	0	横浜市より
利用料金収入	12,182,000		12,182,000	12,907,520	△ 725,520	施設利用料、駐車場収入
自主事業収入	1,500,000		1,500,000	1,465,822	34,178	
雑入	2,703,000	0	2,703,000	3,654,764	△ 951,764	
印刷代	40,000		40,000	26,540	13,460	
自動販売機手数料	160,000		160,000	145,360	14,640	
その他(助成金・協賛金・広告料等)	2,503,000		2,503,000	3,482,864	△ 979,864	助成金、広告料、クラウドファンディング寄附、雑収入等
収入合計	164,056,000	0	164,056,000	165,699,106	△ 1,643,106	

支出の部

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
人件費	75,817,000	0	75,817,000	71,868,590	3,948,410	
給与・賃金	63,341,000		63,341,000	59,612,503	3,728,497	派遣職員人件費減
社会保険料	8,229,000		8,229,000	8,452,456	△ 223,456	
通勤手当	1,281,000		1,281,000	1,296,976	△ 15,976	
健康診断費	71,000		71,000	80,958	△ 9,958	
勤労者福祉共済掛金	48,000		48,000	48,000	0	
退職給付引当金繰入額	2,847,000		2,847,000	2,377,697	469,303	実配置に基づく計上
事務費	3,225,000	0	3,225,000	3,456,092	△ 231,092	
旅費	150,000		150,000	95,437	54,563	
消耗品費	201,000		201,000	454,558	△ 253,558	施設管理消耗品、大型アリア消耗品等増
会議購入費	3,000		3,000	6,969	△ 3,969	
印刷製本費	150,000		150,000	13,380	136,620	
通信費	710,000		710,000	766,916	△ 56,916	
使用料及び賃借料	693,000	0	693,000	760,928	△ 67,928	
横浜市への支払分	123,000		123,000	122,760	240	
その他	570,000		570,000	638,168	△ 68,168	
備品購入費	0		0	118,600	△ 118,600	非接触型検温器購入等
図書購入費	0		0	0	0	
施設賠償責任保険	33,000		33,000	25,300	7,700	
職員等研修費	10,000		10,000	6,500	3,500	
振込手数料	135,000		135,000	69,135	65,865	
リース料	1,079,000		1,079,000	1,078,620	380	
手数料	25,000		25,000	23,749	1,251	
地域協力費	36,000		36,000	36,000	0	
事業費	13,840,400	0	13,840,400	13,177,533	662,867	
自主事業費	13,840,400		13,840,400	13,177,533	662,867	
管理費	58,353,600	0	58,353,600	61,918,588	△ 3,564,988	
光熱水費	7,000,000	0	7,000,000	10,056,484	△ 3,056,484	
電気料金	4,400,000		4,400,000	6,769,485	△ 2,369,485	
ガス料金	2,000,000		2,000,000	2,705,233	△ 705,233	
水道料金	600,000		600,000	581,766	18,234	
清掃費	0		0	0	0	その他保全費に含む
修繕費	470,600		470,600	651,200	△ 180,600	資産扱いとなる修繕の費用を含む。
収蔵作品点検・修復費	1,970,000		1,970,000	2,403,934	△ 433,934	クラウドファンディングによる作品修復費含む。
機械警備費	0		0	0	0	その他保全費に含む
設備保全費	48,913,000	0	48,913,000	48,776,970	136,030	
空調衛生設備保守	0		0	0	0	その他保全費に含む
消防設備保守	0		0	0	0	その他保全費に含む
電気設備保守	0		0	0	0	その他保全費に含む
害虫駆除清掃保守	700,000		700,000	220,000	480,000	状況に応じて実施
駐車場設備保全費	0		0	0	0	その他保全費に含む
その他保全費	48,213,000		48,213,000	48,556,970	△ 343,970	清掃費、機械警備費、空調衛生設備保守、消防設備保守、電気設備保守、駐車場設備保全費、送迎車委託費、廃棄物処理等
負担金	0		0	30,000	△ 30,000	
公租公課	6,585,000	0	6,585,000	6,780,522	△ 195,522	
事業所税	0		0	0	0	
消費税	6,539,000		6,539,000	6,732,400	△ 193,400	
印紙税	25,000		25,000	26,000	△ 1,000	
その他(法人住民税・電波使用)	21,000		21,000	22,122	△ 1,122	
事務経費 (計算根拠を説明欄に記載)	6,235,000	0	6,235,000	6,235,000	0	
本部分	6,235,000		6,235,000	6,235,000	0	
当該施設分			0		0	
			0		0	
支出合計	164,056,000	0	164,056,000	163,436,325	619,675	
差引	0	0	0	2,262,781	△ 2,262,781	